

## はじめに



神奈川県は、都市化が進む中であって、丹沢や箱根の山なみ、里地里山やみどり豊かな丘陵、相模川・酒匂川の流れや相模湾など、豊かな自然環境にも恵まれています。

私たちはこうした自然の大きな恵みを受けて、快適な生活環境を確保してきましたが、近年の私たちによる社会活動は、この豊かな自然環境に様々な負荷をもたらしており、野生生物の生息・生育環境への影響が懸念されています。

こうした中、県では、県内からすでに絶滅したか、あるいは絶滅の恐れがあると考えられる動植物の実態を把握するため、平成7年に野生生物の生息・生育状況の調査結果を基に絶滅の危険度を評価した「神奈川県レッドデータ生物調査報告書」を発行しました。その後、平成18年には改訂版として「神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006」を発行しました。

しかしながら、野生生物の生息・生育環境は刻々と変化するため、その評価は定期的に見直すことが求められます。

また、平成28年3月に策定した「かながわ生物多様性計画」では、生物多様性の保全を進める上での課題として「科学的知見の蓄積」を挙げており、県は様々な機関や団体と連携し、生物多様性に関する情報及び野生生物の生息・生育等に関する情報を収集し、その活用に努めることとしています。

こうした状況を受けて、平成29年度から神奈川県レッドデータ生物調査報告書2006の改訂に向けて準備を進め、この度、「神奈川県レッドデータブック2022 植物編」として発行することとなりました。

本書の発行にあたりましては、神奈川県レッドリスト選定・評価委員会委員をはじめ、種の選定・評価にあられた植物・菌類部会部会員並びに資料の提供や調査にご協力いただいた皆様に多大なるご尽力をいただきました。厚くお礼申し上げます。

本書が、野生生物への関心や自然保護に対する理解を深めるための基礎資料として活用されることを期待しています。今後とも、本県環境行政の推進に皆様の一層の御理解・御協力を賜りますよう、心からお願い申し上げます。

令和4年3月

神奈川県知事 高橋祐治